

## 説教のポイント

信仰によって生きる人々

ガラテヤ三・五〜七

「だから、信仰によって生きる人々こそ、アブラハムの子であるとわきまえなさい」(三・七)

アブラハムは信仰の父とも呼ばれます。ある日突然、神さまから「私が示す地に行きなさい」と呼びかけられ、どこであるかも知らぬまま、その言葉に従って旅立ちました。先祖代々の土地も安定した暮らしも捨て、砂漠をさまよい、異邦の国を進んで行った。「信仰によって生きる」姿です。

その反対は、ガラテヤ書によれば「律法を行う」生き方。分かりやすく言い換えると「模範解答のある生き方」。もともと聖書の律法は神様から送られた、よいものでした。このように生きれば、豊かに人間らしく生きられるよと教えられた。それがいつしか「このように(模範解答) さえして

いればよい」、さらに「このようにできる者だけが優れている」と人間は考えた。それは「できる」と「できない」者を区別し、「優れた」者と「劣った」者をつくり、「上の者」が「下の者」をさげすむことにつながった。きしんでいく人間社会。気づいたら、私たちを愛してくださる神さまが見えなくなっていた…。

もう一度神との豊かな関係を回復したい、そこでパウロはアブラハムに目を注ぎます。私たちを愛し、守り、導いて下さる神はおられると確信し、どこにも模範解答のない世界へと踏み出したアブラハム。聖書の民の歴史は彼から始まった。まだ見ぬ約束の地はあるとの希望がたえず彼の足もとを照らしていた。

今日は永眠者記念礼拝。先に召された先達の歩みに思い巡らしつつ、「信仰によって生きる」豊かさを改めて胸に刻みたいと思います。

(二〇一六年十一月六日永眠者記念礼拝より、津田記す)